

津田小学校 支援・通級

◆「見えない学力・見える学力」における津田小の子どもたちの課題

【見えない学力】

- ・感情をコントロールする・対人マナーを身につける・生活面の自立・自分で選択し決定する

【見える学力】

- ・長文を読み取る力・語彙力・計算力・活用力

◆R06 校内研テーマ

「仲間とつながる授業づくり」

～きょうどう学習を通して～

めざす子ども像

- ①自主性・主体性を育て、自ら学ぶ姿勢
- ②「自己選択・自己決定」をし、仲間とともにより良く生きる
- ③元気に明るく、自分なりのかかわりができる

◆学年としての取組をする上で、明確にしておきたいこと。

【子どもたちにつけたい見えない学力】

- ・感情をコントロール
→自分や相手の気持ちに気づく方法や嫌な気持ちの減らし方を身につける。スモールステップの目標設定をして、できたときには、即座に肯定的なフィードバックをして振り返る。
- ・対人マナーを身につける
→自然と身につかない児童が多いため、日常の出来事を通して、「挨拶」「言葉遣い」「友達付き合い」「学校生活のマナー」を学ぶ機会を設ける。達成する経験を味わい、自己肯定感を上げる。
- ・生活面の自立
→生活面の社会自立に向けた教育課程を設定する。特に、「あいさつ」「忘れ物」「時間を守る」などをスモールステップで児童が達成可能な目標を設定する。
- ・自分で選択し決定する
→学習や生活において、自己決定しながら学校生活していく力を身に付けていく。選択しを考える力が難しい場合は、様々な選択肢の中から選べるようにしておく。

【子どもたちにつけたい見える学力】

- ・長文を読み取る力
→教科書の音読、ICTによる読み上げ、ICTによる読み聞かせなどを組み合わせるなど、挿絵も活用しイメージを広げながら長文に慣れる。
- ・語彙力
→フラッシュカードや具体物を使用し、語彙を増やす。
- ・計算力
→基礎基本となる四則計算を徹底する。短期記憶が弱く、定着しない児童には、九九表などをわたし、割り算につなげる。
- ・活用力
→学校で学習したことが、家庭学習でも活かせるように、児童に合った課題を考える。

【個別最適な学びの充実に向けた取組】⇒ **すべての児童に対して**

① 指導の個別化・学習の個性化の取組

→支援学級では、児童の課題にあわせた「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を設定。パターンやスケジュールを提示し、安心して行動できるように、また、児童のこだわりや感覚過敏には、一定の理解を示しつつ、児童が集団生活を過ごしやすくしていくよう配慮する。ルールは明確に示し、クールダウンする場所を用意する。教科学習だけでなく、生活面など社会的自立を目指す。

→通級指導教室では、児童の課題に合わせた「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を設定。自己表現や集団参加について自信をもてるような SST 指導を行い、スキルだけでなく同時に心理的ケアも行う。ミスや不適応行動を起こしやすい児童もいるので、環境を整える、肯定的な評価をたくさんする。

【協働的な学びの充実に向けた取組】⇒ **すべての児童に対して**

① 協働的に取り組む学習活動

→合理的配慮のもと、どの児童も安全で安心した居場所づくりをしていく。「あたたかい雰囲気」「受け入れられている感」「仲間意識」など本人が「安全」「安心」と感じる場にする。失敗体験が続くと、児童の自尊感情の低下につながるため、協働学習を進める上では、特性を本人自身が知ることや、周りが知ることが大切。教科学習では、得意な児童が不得意な児童に教える。また、児童によって達成目標が違う学習活動を取り入れる。

② 人権教育の観点に基づいた取組 ⇒ **日々の学習活動を通して**

→自己受容、他者理解ができる子供たちを増やす。支援学級や通級指導教室で学習した SST の指導をもとに、子供同士での関わり合いの中で「私も成長したい」と自らの意思で成長ができる取り組みをする。支援学級の児童や通級指導教室の児童は、年齢相応のスキルが身に付きにくく、学校で上手に自己表現できないことが多い。「空気をよむ」「普通はわかる」ではなく、「できないこと＝まだ知らない」と考えられる児童を増やし、児童同士の交流の中で、表面上の行動ではなく、内面からの変容を目指す。

支援担任や通級指導担当者が配慮の必要な児童の話をして、障害理解教育を推進する。

【校内研のテーマに対する取組】

→「もちあじ」の人権教育を通して、自己理解、他者理解を進める。

→児童の課題にあったスモールステップを考え、支援学級での取り組みを通常学級へとつなげる。

→きょうどう学習の中で、「教えて」と言える仲間とのつながりを味わう。

【SDGs の取組】（「やり切る」が大事！）

テーマ：児童の合理的配慮に合った学習環境の整備

→多様な子どもたちがいる集団の中で、一人ひとりの児童が「安心」「安全」に過ごすことが必要となる。合理的配慮が児童に合っているか、学習環境が最適か、定期的に通常担任と確認し、PDCA サイクルで検討していく。